

第 5 0 回技能五輪全国大会「造園」職種競技課題

次の注意事項及び仕様に従って、指定された区画内に施工図に示す庭園を見栄え良く作庭しなさい。

1 競技時間

標準時間	1 1 時間 3 0 分
打切り時間	1 2 時間

2 注意事項

- (1) 支給された材料の品名、寸法、数量等が「競技用材料（支給材料）」のとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は、申し出ること。
- (3) 競技開始後は、原則として支給材料の再支給はしない。
- (4) 使用工具等は、各自必要と思われるものを使用してよい。ただし、電動工具の使用はできない。また、あらかじめ印をした用具などは使用を禁止する。
- (5) 競技中は、工具の貸し借りを禁止する。
- (6) 競技中に観客等と話しをしたり、指導を受けたと判断されたときは、減点をする。
- (7) 原則としてあらかじめ設定された木枠（3500×5000 mm）の中で作業する。ただし木工作業は木枠外の指定箇所で行ってよい。
- (8) 作業時の服装等は、作業に適したものとし、保護帽を着用すること。
なお、保護メガネを必要とする作業においては着用すること。
- (9) 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に応じて減点される。
- (10) 競技中は携帯電話（メール、時計、電卓の使用を含む）の使用を禁ずる。
- (11) 競技中は課題と図面以外の参照を禁止とする。
- (12) 課題と図面にメモ書きを入れることは禁止とする。
- (13) 作業が終了したら、競技委員に申し出ること。

3 仕様

国際大会の採点方式に準じて、モジュール採点を行う。競技1日目（10月27日）の作業終了時までに、3-1地均し～3-3花壇小端積みを完成させる。以上の工程を競技1日目（10月27日）に採点する。

3-1 地均し

現状土を使用し、地盤を計画高にする。

3-2 石積み

石材を使い、図面のように石積みを行う。

3-3 花壇小端積み

鉄平石を使用し、詳細図のように施工する。土目地とする。

3-4 小舗石敷き

小舗石を使用し、図面のように土ぎめで敷設する。

3-5 園路・敷石

鉄平石と御影石を使用し、図面のように土ぎめで敷設する。

3-6 石貼り

石貼り用石材（砂岩）を使用し、図面のように仕上げる。砂目地とする。

3-7 バラのアーチ

木材等を使用し、詳細図のように施工する。モッコウバラを植え付け、つるを柱にとめる。

3-8 ごろた敷き・流れ

黒のごろた石と、水辺の植物でビオトープを表現し、石積み用石材の一部と砂利を使用し、図面のように流れをつくる。流れ（白砂利）の下に、支給されたシートを敷くこと。

3-9 植栽

支給された高中木及び低木は図面のような感じになるように土ぎめで植栽し、必要と思われる剪定はしてもよい。

3-10 草花植栽

支給された草花を、指定された区画に修景を考慮し植栽する。

3-11 芝の植付け

目地なし、目土なしで施工すること。砂利と芝のラインは図面のように仕上げる。

3-12 地均し・整地

土が余った場合は、区画内で処理すること（地ごぶ等をつくっても良い）。

4 支給材料（１組分）

品 名	寸法又は規格（mm）	数 量	備 考
石積み用石材	ϕ 400mm 内外 ϕ 300mm 内外 ϕ 150～200mm 内外 ϕ 100mm 内外	15個 15個 20個 30個	合計 約1.5t (山梨県産)
小舗石	90×90×90	95個	
石貼り用石材	600×700×30	4枚	サンセットピンク
花壇 小端積み用石材	300×80×30	24本	鉄平石
	300×80×50	40本	
園路用石材	300×80×30	17本	鉄平石
	300×80×50	27本	
敷石	300×600×60	1枚	御影石(1面ビシャン、他機械切り)
アーチ用木材	75×75×1900	4本	} 指定寸法に加工済
	75×75×500	2本	
	75×75×1330	2本	
	30×40×3600	2本	
アーチ用ビス	38mm	23本	
	75mm	14本	
	100mm	22本	
アーチ用L字金物	65×65×55	4枚	
川砂		1袋	石貼り目地用
ごろた石（黒）		3袋	
白砂利		6袋	3分砂利
シラカバ	H=3000、H2500	各1本	
モミ	H=1300～1600	5本	
サツキ		1株	
水辺の植物		10ポット	
花物・草物		70ポット	
モッコウバラ	1200	1ポット	長尺もの
園芸用結束線		若干	
コウライ芝	切芝	7㎡	
シート	3600×5400（2間×3間）	1枚	流れ（白砂利）用

5 持参工具

- (1) 必要と思われる工具は持参しても良いが、手作業で行うことを原則とするため電源（発電機も含む）を必要とする電動工具や油圧を使う工具については使用出来ない。
ただしアーチ施工のビス止めに使用する充電式インパクトドリルについては持参可とする。
- (2) 工具の大きさについては特に指定はないが、通常使用している標準的な工具とする。
- (3) 充電式ドリルの刃を交換してサンダーのように使用することはできない。

6 その他の注意事項

- (1) ベニヤ板を2枚支給するので自由に使用して良い。
- (2) 印刷方法等で課題図面の縮尺に誤差が発生した場合は、表示寸法を優先にすること。
- (3) 材料については都合により直前に変更することがある。
- (4) 競技終了後、課題の解体撤去作業を行う。